

地域医療支援センターだより

センター長のごあいさつ

地域医療支援センター長 内科部長 山端 潤也



医学的、社会的内容を問わず様々な情報が飛び交い、時には怒りを覚える報道などもあります。奥村義治会長はじめ医師会からは、折に触れ毅然とした態度をお示しになり「郡市医師会で協力して診ていこう」と力強く発信いただいております。また、医療関係や住民の皆さん、多くの方々からご支援や応援メッセージなどが届いており、心より感謝申し上げます。

時節柄、目標の「顔の見える関係、声の聞こえる関係」が難しくなっております。それゆえ連携において当地域医療支援センターの果たす役割はますます大きくなると思っております。日常診療も含め、今後とも変わらぬ連携・ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

メンバー紹介



- 【左奥より】
田中、齋藤 (MSW)
- 【左中央より】
大森 (事務)、
島田 (退院調整専従看護師)
藤井 (MSW)、堤 (MSW)、
高名 (MSW)、谷内 (MSW)、
鹿島 (事務)
- 【左手前より】
横山副センター長 (地域連携
看護師)
上木副センター長 (病院長)
山端センター長 (内科部長)、
小山 (地域連携看護師)、
青木 (地域連携看護師)

新メンバーは横山、小山、鹿島です。
シームレスで円満な地域連携を目指して頑張りますので、
よろしくお願い致します!!

たくさんのご寄付。
ありがとうございます。

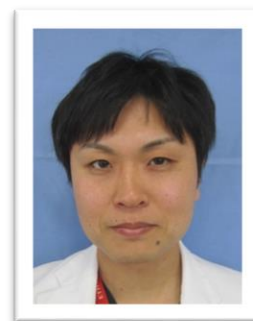


励ましの手紙やお菓子・花、
手作りの防護物品など



日々、感染症対策の最前線で患者さんと向き合っている職員へ、敬意を表し応援メッセージを掲示しました。

外科医長 古谷 裕一郎



これまで大腸癌に対しての手術は開腹手術から始まり、現在では腹腔鏡手術が主流となっている施設が多いです。腹腔鏡手術のメリットとしては、①手術が低侵襲、②創部が小さく術後疼痛が軽減される、③術後入院日数が短い、などの大きなメリットがあります。

当院では2020年4月より盲腸癌・上行結腸癌に対して、単孔式腹腔鏡手術を術式の1つとして開始致しました。これまでの腹腔鏡手術では5つの傷での手術（多孔式腹腔鏡手術）でしたが、単孔式腹腔鏡手術では臍部の傷1つで手術をします。

メリットとしては、傷が1つに減ることで**整容性に優れている**のみならず、さらに**術後疼痛の軽減も期待**できます。それにより**術後入院日数の短縮、ADL増悪の予防、鎮痛薬使用回数の減少**なども期待することができます。

単孔式腹腔鏡手術の適応病変としては現時点では、盲腸癌・上行結腸癌・虫垂腫瘍としておりますが、患者様の希望に応じて適応を検討させていただきます。また癌の進行度、手術歴などによっても単孔式腹腔鏡手術が不可能な場合もございますが、できるだけ患者様の負担を軽減できるように工夫しております。

回復手術



従来の腹腔鏡手術



単孔式腹腔鏡手術



大腸癌に関してご相談がありましたら、
当院外科までご連絡ください。

臍部に3cmの傷が一つ
創部も目立ちにくい